

偏向報道が、いよいよ犯罪として明らかになったとき

Greatchain

2019/01/22

今、アメリカの国内で、しかし世界を巻き込んで、いわば天下分け目の戦争が起こっていることを、知らない人はいないだろう。しかし何の戦争か？ これは徳川と豊臣側の戦争のようなものではない。仮にそのような戦争だったとしたら、メディアが完全に一方に偏った報道をしても、不公平を批判はされても、道徳的責任を問われることはない。また、もしアメリカとロシアが、純粋な領土争い戦争をしたとして、一方的に同情の余地があったとしても、それでもなお、メディアがどちらに味方しようと、強く責めることはできないだろう。それぞれの観点の自主性があるだろう。

しかし、今アメリカで起こっている戦争は、わかりやすく言えば、少数のトランプ革命軍と、彼を亡き者にしようとする、残りのワシントン腐敗政府軍である。それはメディアが幻想を抱かせるような、関ヶ原の戦いのようなものではない。

トランプの選挙公約は「ワシントン DC から政権を奪って、あなたがた人民にそれを手渡す」というものだった。そして、その公約がいよいよ実現されそうな雰囲気、今はっきり見えてきた。トランプがこれまで、ふらついているように見えたのは、陽動作戦だった。ワシントンに巣食う政府が、巧妙にアメリカを乗っ取っている見えない陰謀団（陰の政府）の手下であることを、トランプは承知の上で行動していた。一般人民は長い事これに騙されていた。しかしこのところ急速に、はっきり目覚め始めた。第2のアメリカ革命が、今起こっているのだった。

ところで、この陰の政府は、単に領民を苦しめる領主のようなものではない。彼らは、アメリカ人民だけでなく、人類そのものを奴隷化しようとする「人類の敵」だった。メディアの決して触れない「ペドゲイト」や子供人身売買が、ほとんど政府（CIA）の手で行われている。トランプは、大統領に当選するかなり前から、この上層部の腐敗の事実を知っていて、その一掃を自分の使命と考えていたと言われる。ペドフィリアはただの強姦ではない。サタンにしか実行できない、天も人も許さない、考え得る最大の犯罪である。果たして、NWO 陰謀団は、その核心においてルシファー信者であり、生贄のための幼児を必要としている。そして今、この醜悪な犯罪や、人民を代表する大統領に対する、大逆罪を問われる者

たち、いわゆる「泥沼」の清掃、すなわち一斉検挙が始まっている。この事実をずっと前から調べ上げている、姿を隠した協力者（デイヴィド・ウィルコックのいう the Alliance や正体不明の Q など）の暗躍によって、ワシントン政府の内部は、パニックに陥っていると言われる。

トランプの暗殺は、比較的簡単なはずだが、今まで、少なくとも、その表ざたとなった報道はない。しかしそれはいつ起こっても不思議ではない。トランプに対するある画策（同じ繰り返しの、でっち上げ「ロシア癒着疑惑」やトランプの「選挙不正？」）によって、おそらくトランプもこれで終わりだと判断され、わが国の代表的 TV ニュースが、数日前、一方的な反トランプ報道をした。それは両論併記と言われる、バランスを考えたものですらなかった。（それより前に、解説番組で、「ロシア癒着」と「ブレット・キャバノーの高校時代の性犯罪」が事実であるように言っていた。）

今起こっている米政府内の暗闘は、家康と石田三成の暗闘のようなものではない。アメリカという一地域のものでもない。それは善悪闘争、神とサタンの闘争、「神側」の「純粹悪」に対する戦いである。それは、巧妙なプロパガンダによって、地球と人類を支配しようとしてきた悪の勢力に対する、普遍的な善の戦いである。したがって今ここで、トランプを暗殺しようとする側に立って、一方的な報道をするということは、「人類の敵」の側を擁護するということである。これは、もし我々が何も手を下さなければ、世界からは（特に平和条約のかかっているロシアからは）、日本国民全体の立場と思われるだろう。

そもそも「ロシア癒着」などという言葉自体が間違っている。これはロシアを敵国とみなした表現である。ロシアは、人民のアメリカにとって敵などではない。神の敵である陰謀団にとっては敵であろう。しかし陰謀団はアメリカではない。そのあたりをうまくごまかすことによって、この犯罪集団は世界を支配してきた。そしてその計略は、ついに破綻した。実はトランプは、むしろロシアと癒着すべきである。そして霊界の JFK と協力して、3者で世界を正常に戻すべきである。

もう一つ、しつこいようだが、この TV テレビに言いたいことは、ダーウィン進化論がこれに密接にかかわっていることだ。ダーウィンの名を含む番組のタイトルから、その名を消すべきである。これは生物学の話なのだから、そんなに目くじらを立てるな、と言う人がいるだろう。それは間違っている。ダーウィンは、例えば、シートンとかファーブルといった動物学者の名とは、全く違っている。それはいわば、魔力をもつ名前である。その点でマルクスに似ているが、マルクス以上であろう。ダーウィン(ダーウィニズム)に含まれる概念は、神は不要だ、道徳など存在しない、人間や宇宙に意味も価値もない、それは偶然と物力で生じたものだ、学問で許されるのは唯物論だけだ、等々、すべてネガティブなものだ。この素

晴らしく構成された宇宙の奥には、何があるのだろうという健全な好奇心は、そこでは禁止されている。科学は窒息させられている。そして科学の世界では、ダーウィン進化論はとうの昔に見限られている。

党派心や敵愾心だけを動機とする学者（そういう者がいれば）を除いて、真剣で純粋な探求心をもつ学者で、ダーウィンを前提として研究し続けている学者は、今いないはずである。30年くらい前まで、ダーウィンが正しい**かもしれない**という研究結果を、誰か有名大学の研究者が発表すると、新聞とテレビが飛びついて、大げさに報道したことを知っている、メディアの人々に訊いてみたい。あれは何だったのか？ 今そういうことがないということは、誰もそんな研究をやっていないということではないか？ そしてこれは、あの陰謀団の策略の最も巧妙な、そして最も彼らが頼みとする、隠ぺい手段の一つだったのではないか？ 彼らは、自分たちの支配する人間どもに、神、あるいはより高次元世界への、目を開いてほしくなかった、それは彼らには、最も恐ろしいことだったからである。

もっと具体的に説明しよう。今アメリカで、最も公然と反トランプの旗をかかげているのは、ナンシー・ペロシを頭とする民主党である。その民主党が中心になって熱心に運動しているのが、正常な性関係の故意の混乱、すなわち LGBT を正常化することである。この場合も、彼らが意識するか否かに関係なく、前提にしているのは、やはりダーウィン進化論である。彼らが、男女の別は決まったものでなく、流動的なものだ**と主張するのは**、人間とサルの違いに区別はなく、流動的なものだ**というと同じである**。要するに本来、男女の間にも、人間とサルの間にもケジメなどなく、神の創った秩序などは破壊していいのだ、と彼らは言おうとしている。

では、放送記者や新聞記者が、国民を裏切る犯罪者にならないためには、どうすればいいか？ 私は、アメリカから来た記事や映像を、そのまま流さないで、せめてうまく工夫して改造するくらいの義務はあると思う。それさえできないなら、潔く退職すべきである。働き口はいくらでもある。